

合唱団ホームページアドレス <http://www.wiengifu.org>

音楽とは 横への感性なり!

9 月号

 2017年9月1日
 編集・発行/
 ウィーン岐阜合唱団

 おとだの
 岐阜の街 ウィーンの如く 音楽し 作:音楽総監督 平光 保

定期演奏会を終え、冬の“第九”へ

ウィーン岐阜合唱団 団長 森島 成享

今年の定期演奏会ほど、色々な意味で難しく頭を悩ました演奏会はかつてありませんでした。それは、初めて取り組む宗教曲という事で、暗譜で最後までいくのは難しいのではと思ったからです。

1月からの練習でも皆さんの曲に対する姿勢がすっきりせず、こんな状態が続けば大変なことになるのではと心配もいたしました。特に、メロディー部分の多いソプラノのパートの取り組みが真剣味を帯びてきて4月に入ってから徐々に皆さんの取り組み姿勢が一本にまとまってきて、コージュ高鷲の合宿では合唱練習に専念できました。

また、松本牧師のお話をお聴きすることができ、何とかなるのではないかと思えるようになりました。最後の一ヶ月の間に何回もの強化練習があり、暗譜は勿論、曲の思いを声で伝えられるまでになった事は驚きでした。演奏会当日の声だしやゲネプロでの合唱団の声の響きは、ただものではない崇高な感じさえました。

演奏会では、皆さんのレクイエムに取り組む真剣な思いが観客の皆さんの胸に伝わり、素晴らしい拍手を頂きました。お客さまをお見送りした時の反応もいつもと違い“とてもよかった”。という大勢のご意見が聞かれました。また、帰宅してからも、電話やメールでお褒めの言葉を沢山頂戴しました。全て団員の皆さんの集中心のお陰であり、本当に素晴らしかったです。

団員の皆さまには、チケットの販売でも頑張っ

ていただき、岐阜・大垣合せて820枚(最近5年間では最高の販売)、当日券12枚、招待券58枚で入場者850名近かったと思われま

す。団員の皆さま本当にありがとうございました。また、東北大震災、熊本大震災に対する義援金募集でも、団員の皆さんのお声と思いが観客の皆さんの胸に届き101,872円もの義援金をいただきました。早速福島「蓮笑庵」くらしの学校に送金させて頂きました。

これからは、いよいよ年末の“第九”に向けての練習です。仲間の方、ご家族の方等にお声をかけて頂き、少しでも多くの皆さまと登壇したいと思っておりますので、よろしくお願い致します。

今年は、大変忙しい年になりそうです。

12月24日の長良川国際会議場での「第九」の前に、9月25日には、ぎふ清流文化プラザでリトアニア合唱団との合同演奏会があり、夜はホテルグランベールでウィーン岐阜合唱団主催の交流会が企画されています。10月15日～16日には紅葉ツアーで高山を訪れ、現地の合唱団(50名ほど)と、楽しい交流会を計画し、飛騨での「第九」の演奏会の礎を築きたいと考えております。

12月3日～4日には大阪で「万人の第九」があります、団員の皆さまもそれぞれの壇上で更に深い達成感をあじわうことでしょう。今後ともお互い力を合せ頑張りましょう。

ウィーン岐阜合唱団 皆勤者 平成29年1月～7月

岐阜本部

ソプラノ：臼井とみ子 新田ひとみ 林 順子
 アルト：長縄郁代 森島範子 山田秀子
 テナー：竹中千尋 棚橋英俊 森田 進
 バリトン：森島成享

大垣支部

ソプラノ：河田尚美 山口水篤
 アルト：臼井玲子

フランスとフォーレとウィーン

田丸 且行 先生 からの寄稿です

7月30日のコンサートでは2曲共お馴染みの曲だが、正に「はまって」しまった。四季では単なる歳時記描写に終らず純和風の精神の奥底にまで迫ってくるような説得性があり、また、演出の妙もあり耳も目も楽しめた。平光真彌氏のヴァイオリンは限りない才能を秘めた演奏。益々今後が楽しみだ。

フォーレ。これ又好演。20回を飾るエポックメイキングになるだろう。ちなみにフランスは世界のトップクラスの魅力を持った国。世界中からフランスに押し寄せる観光客は年間7500万人。フランスの人口6000万人より多い。2位のスペインは5100万人。日本は33位。愛地球博でやっと600万人を超えた。

フランスの何が魅力なのだろうか。フォーレを知れば知るほど、おぼろげながらフランスの小唄、エスプリと言われるウイット、ユーモア、美意識を持つ洗練されたフランス人気質が感じられる。勿論、フランス料理、ワイン、チーズ、パンやデザインのセンス等あげればきりが無い。日本との関係も深い。例えば、印象派の絵に与えた影響は大きい。又、印象派の音楽を好む人も多い。ドイツ音楽の持つ論理性、構築性は、ややもすれば、まじめだが重苦しさも合わせ持つ。一方でフォーレは湖面を愛したとも言われる。頷ける挿話だ。

フォーレ音楽の真髓が見えてくるようだ。三大レクイエムの中で自分の葬式にはフォーレを希望する日本の音楽ファンが多いのではないかと思う。

先般亡くなった日野原重明氏はフォーレで見送られた。ショパンはモーツァルトを所望した。ヴェルディを聴くともう一度起き上がりたくなるのではないかと懸念さえある。勿論、僕はフォーレである。清澄、透明純粋無垢、慎ましさ、天上的な美意識、悟りの境地等は僕の生まれた四国の一期一会の出会い、空海の自然観、無常観、無や死を想う気持ちと同根のものを感じてしまうからである。ともあれフランス的明るさ、軽妙洒脱で、はにかみながら訴えてくる、生きる喜びや希望に満ちた音楽は胸に迫ってきた。それにしても今年のコンサートをフランス人が聴いたら、どのような感想を漏らすだろう。日本人の持つ限りない受容力、咀嚼力、表現力に驚嘆するに違いない。平光氏はドイツ的情念を実務としてこなしながらも深いところでウィーンの持つ洗練、日本の粹に通ずる世界を希求しておられるようだ。それはフォーレの世界にも相通じる。

今後は岐阜をウィーンの如くと言う音楽普及の世界にフランス音楽が加わり、より色彩豊かなプログラムが期待されよう。

田丸且行プロフィール

1941年愛媛県で生まれる。愛媛大学、東京芸術大学を経て、財団法人ヤマハ音楽振興会に奉職。その間テキストの開発、製作、指導実務に携わる。現在各務原西デザインセンターにて音楽講座実施中。

初めての演奏会に登壇して

大垣支部 バリトン 岡田 富雄

舞台裏で待機するときの高鳴る鼓動。登壇して見渡す向側に、こちらを見つめる多くのお客様の眼。

平光先生の振り上げた指揮棒に全神経を集中させて歌い出す。

あっという間の時間が過ぎ去り、お客様からの拍手。・・・

私が合唱で味わう人生初めての達成感、感動でした。しかし、練習で出来ないことが本番でできるわけがなく、tremensが見事に出遅れてしまいました。次回こそは！合唱経験のない私にとって音符は読めない、音も取れない、音楽用語もチンプンカンプン、声の出し方すら知らない状態で、この1月に入団しました。しかし、私なりに物事にこれほど一所懸命に取り組んだ経験は最近にないことで、充実感にあふれるこの半年でした。素敵なウィーン岐阜合唱団と素敵な仲間に出会えたことに感謝です。平光先生の「早い、音が違う」という心に刺さる刃に耐えながら、伴先生の優しい笑顔に癒されながら、また、あの達成感と感動を味わうために頑張りたいと思います。よろしくお願ひします。

20回ウィーン岐阜合唱団 定期演奏会 —登壇させていただいて—

南越前町 “第九”代表 澤崎 信雄

素晴らしいステージと満席のお客様をお迎えしての演奏会に出させていただき、誠にありがとうございました。二日が過ぎましたが、まだ余韻が覚めやらず皆様の顔が去来しています。

合宿から参加させて頂き、一月から練習なさっていた皆様の中へ臆面もなく入れていただいたこと、唯々お礼を申し上げる外ありません。しかも、レクイエムの全曲を暗譜で歌う、私はキリエ、アニェス・デイ等を何回か歌いましたが、暗譜ではありませんでした。一緒に歌っていて皆様の言い知れないご努力の結果を見た思いで感服致しました。“やれば できる” このことでしょうか。(私は、大変失礼な事をしたと、反省しきりであります) そして、大規模合唱団ながら良くハーモニーが取れていてその美しさがおお客様の心に響いた事と思います。これは、練習毎に平光先生から指示されたことを心に込めて歌い上げられたことの成果だと言えます。10年前に比べて格段に洗練された合唱

団だと、歌いながら噛みしめております。

また、柔らかなピアノ伴奏(菅原先生)の響き、練習のたびに心を奪われておりました、良き指導者に恵まれているウィーン岐阜合唱団の将来は更に高まって行くものと確信しました。

私事になりますが、今回レクイエムを松本牧師さんと一緒に並んで歌わせてもらったこと、これは私の一生の宝物となりました。普通なら対面でしか歌えないことですが、偶然とは言えない私への啓示と受け止めたいと思っています。

20回目の定演と平光先生の古稀記念コンサートに参加させて頂き、心からお礼と皆様の益々のご発展を祈念申し上げます。

平成29年8月1日

万目のホールに響く レクイエム

みな声合わせ 今日も生きつ

レクイエムを歌い終えて

岐阜本部 アルト 田口 宏美

10年前 合唱団に入団した時、私には是非とも歌ってみたい歌がありました。それは、“第九”と“ハレルヤコーラス”そしてレクイエムです。第九とハレルヤコーラスは程なく歌う事が実現しましたが、正直なところレクイエムはこの合唱団で歌う機会はないのではと思っておりました。ですから、夏の演奏会でレクイエムを歌う事が決まった時は、本当にわくわくするような気持ちでした。ところが、喜んだのも、つかの間。楽譜を見ると喜んでばかりはいられなくなりました。あちら、こちらにある「pp」・「ppp」の記号、ラテン語の暗譜、そして、アルトにとって恐怖のⅡ番(OFFERTORIUM)が待っていました。冒頭部分は音が下がりがくり、天上どころか地獄行きのような状態！それでも平光先生、伴先生、菅原先生の熱い指導を受けながら、少しずつですが音程のキープが出来るようになり、何とか演奏会までこぎつけました。今回のレクイエムほど、歌う事に体の支えの必要性を感じたことはなく、とても勉強になりました。本番では、篠部先生、真由子先生の素晴らしいソロに癒され、他のパートの歌もうっとり聴きながら、平光先生の素晴らしい指揮で気持ちよく歌う事ができました。幸か不幸か、初登壇がレクイエムと言う難曲になってしまった新人さん達も、とても頑張っておられました。また、ベテランさんも「途中であきらめかけたけど、続けて良かった」と言われました。打ち上げの時に篠部先生が「レクイエムを暗譜で歌った合唱団は初めてです」と、言われたのは本当に驚きでした。ウィーン岐阜合唱団の皆さんの底力は、本当に凄いですね。平光先生、私の願いを叶えて下さり、ありがとうございました。欲張って言ってしまいましたが、今度はモツレク(モーツァルトのレクイエム)を歌わせてください。

9～11月練習予定

練習時間は18:45～20:45です。(18:30には集合しましょう!!)

| 月日 | 岐阜 | 月日 | 大垣 |
|---|--------------|-----------|------------|
| 9月7日(木) | 長森コミュニティセンター | 9月8日(金) | 大垣市南地区センター |
| 9月14日(木) | 長森コミュニティセンター | 9月15日(金) | 大垣市南地区センター |
| 9月21日(木) | 長森コミュニティセンター | 9月22日(金) | 大垣市南地区センター |
| 9月25日(月) リトアニア合唱団との演奏会 ぎふ清流文化プラザ AM:10:00～ | | | |
| 9月28日(木) | 長森コミュニティセンター | 9月29日(金) | 大垣市南地区センター |
| 10月5日(木) | 長森コミュニティセンター | 10月6日(金) | 大垣市南地区センター |
| 10月12日(木) | 長森コミュニティセンター | 10月13日(金) | 大垣市南地区センター |
| 10月19日(木) | 長森コミュニティセンター | 10月20日(金) | 大垣市南地区センター |
| 10月26日(木) | 長森コミュニティセンター | 10月27日(金) | 大垣市南地区センター |
| 11月2日(木) | 長森コミュニティセンター | 11月3日(祭) | 大垣市南地区センター |
| 11月9日(木) | 北部コミュニティセンター | 11月10日(金) | 大垣市南地区センター |
| 11月16日(木) | 北部コミュニティセンター | 11月17日(金) | 大垣市南地区センター |
| 11月23日(祭) | 長森コミュニティセンター | 11月24日(金) | 大垣市南地区センター |
| 11月30日(木) | 長森コミュニティセンター | 12月1日(金) | 大垣市南地区センター |

第20回 夏の定期演奏会を終えて

岐阜本部 アルト 山田 秀子

「レクイエム」を歌い終り、最後の響きが空間に余韻を残して消えていき、そして、数秒の素晴らしい静寂が訪れた時でした。

今年の1月から練習を始めて、毎週の練習光景、合宿の時の光景が走馬灯のように頭の中をめぐるようになりました。平光先生がお客様に向かっておじぎをされると、大きな拍手が会場いっぱいに響いてきました。なんともいえない達成感と幸福感。

「アーよかった、お客様に喜んでいただけた」……

決して楽ではなかった、この「レクイエム」。

アルトが思いっきり声を出して歌える2番目のDomineは、果たして本番までにお客様の前で歌えるのか、正直自信ありませんでした。でも、入団して以来、参加した定期演奏会やイベント、海外での演奏会は平光先生や伴先生について行けば、必ず成功し、参加するたびに幸せな気持ちになれるという体験ばかりさせていただいてきました。だから、きっとこの曲もご指導いただけたとおりに練習すれば、必ず歌えるようになると信じて練習してきたことが思い出されて静寂さのなかで胸に熱いものがこみ上げてきました。

演奏会が終わってしまうと、寂しいものですね。皆さんと何度も何度も練習してきた歌を、パタッと歌わなくなってしまう。また、さらに練習して美しい歌声で合唱してみたい、そんな曲「レクイエム」に出会えたことに感謝したいと思います。

